

科目名		建築法規Ⅱ			
担当教員		佐藤 静	実務授業の有無		○
対象学科		建築デザイン科	対象学年		2
必修・選択		必修	開講時期		前期
		単位数		時間数	
		16			
授業概要、目的、授業の進め方		「建築法規Ⅱ」は、1年次の基礎知識を基に、建築士試験・実務に対応出来る建築法規の習得を目的とする。			
学習目標 (到達目標)		基準法・施行令・告示等の関連を再度確認・習得。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		書名：建築関係法令集（法令編）発行：（株）総合資格学院（参考書：図説やさしい建築法規・学芸出版社）			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	防火地域 ①防火地域（準防火地域）内に関する建築物の規定 ②22条地域、延焼のおそれのある部分について			達成目標：項目①～②防火地域内・準防火地域内における建築物の制限、22条地域、延焼のおそれのある部分のが理解・説明できる 準備学習：教科書①②の予習	
2	建築基準法、別表			基準法、別表1～4について説明。 (別表について、関連法の確認・理解でき説明できる。)	
3	構造強度(木造) ①木造建築物の構造強度に関する規定。 ②柱・筋かい(耐力壁)の説明。			達成目標：項目①～②木造建築物の柱の大きさ・筋かいの必要量が理解・説明できる 準備学習：教科書①②の予習	
4	構造強度(鉄骨造・鉄筋コンクリート造) ①S造・RC造の使用材料・ ②強度・構造等			達成目標：項目①～②鉄筋コンクリート造等の材料、構造の強度等が理解・説明できる 準備学習：教科書①②の予習	
5	耐火構造・防火区画等(耐火・準耐火建築物の防火区画) ①建物の耐火性能、用途・規模等による防火区画・種類			達成目標：項目①建物の耐火性能、用途・規模等による必要な防火区画・種類等が理解・説明できる 準備学習：教科書①の予習	
6					
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
期末試験	小テスト			法の確認チェックは、法の順・条項ではなく、関連する「法・令・告示」の全てを調べる必要があります。従って、その関連する条項を早く確認できる事が大切です。また、建築全てにおいて、法が関係しています。広範ですが、頑張って下さい。	
70%	30%	%	%		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		住宅設計に10年携わる			